

令和4年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

吉備でチャレンジ！イングリッシュキャンプ

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

英語を用いて外国人講師や仲間と協働して自然体験活動を行うことで、表現力やコミュニケーション能力、自ら考えて行動する力、チャレンジ精神を身につけるとともに、自国や他国の文化について理解を深める。また、外国人講師との交流を通して、外国文化に親しみを持つとともに、国際交流を楽しみながらコミュニケーションを図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和4年12月1日（木）～12月2日（金）1泊2日

(2) 参加者

① 参加対象・人数

吉備高原小学校6年生13人

② 参加者

吉備高原小学校6年生13人

(3) 講師等

ベラ・ノヴィツカヤ 氏（岡山県県民生活部国際課 国際交流員）

ノリス・ジョシュア 氏（奈義町情報企画課 国際交流員）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 事前打ち合わせでの「英語に対する苦手意識が強い児童が多い。」という担任の先生からの情報を受けて、昨年度とは異なりオールイングリッシュの形はやめて、日本語を交えつつ英語に親しむことを第一の目的に設定した。
- ② レクリエーションでは、外国人講師に指導を依頼し、母国の文化紹介や英語を使ったゲームで外国文化への興味を高めた。
- ③ 学校から普段英語の授業で使用している教科書を見せていただき、学校で習った表現や単語を事前に調べて活動に取り入れた。
- ④ 今回参加した学年は、新型コロナウイルスの影響で宿泊事業の経験が少ない学年だった。当初は9月に実施予定であり、新型コロナウイルスの状況をみて日帰りでの実施も想定したが、学校側からの要望に応じて開催日時を延期し、宿泊形態で行った。

3. 活動の内容等

(1) 日程

12月1日(木)		12月2日(金)	
9:30	開会式・オリエンテーション (Opening&Orientation)	6:45	起床 (Wake up)
10:30	アイスブレイク (Ice Breaking)	7:15	掃除 (Clean up)
12:00	昼食 (Lunch)	7:45	ラジオ体操 (Radio calisthenics)
13:00	レクリエーション (Recreation)	8:00	朝食 (Breakfast)
14:30	オリエンテーリング (Orienteering)	9:00	交流 (Meet and greet)
16:30	寝具説明・休憩 (Bed making・Rest)	9:30	点検 (Room inspection)
17:30	夕食 (Dinner)	10:00	野外炊事 (Outdoor cooking)
19:00	キャンドルのつどい (Candle night)	14:30	閉会式 (Closing)
21:00	入浴 (Bath time)		
22:00	就寝 (Bed time)		

(2) 活動の状況



【オリエンテーション】



【レクリエーション】



【オリエンテーリング1】



【オリエンテーリング2】



【キャンドルのつどい1】



【キャンドルのつどい2】



【野外炊事1】



【野外炊事2】



【野外炊事3】



【閉会式】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：88% やや満足：12%

(2) 参加者の声

①児童

ア. 外国語には全く興味がなかったけど、イングリッシュキャンプで少し興味がでてきた。

イ. 外国の人と英語で話すことが少しできた。すごく楽しかった。

ウ. とても楽しく、またあれば参加したいと思った。

エ. これからももっと英語を使っていきたいです。

②教員

ア. 外国語に興味を持つきっかけになっている子供がいると嬉しく思う。

イ. 交流員たちと親密になれるゲームやアクティビティなどふんだんに取り入れられ、児童も心から楽しむ気持ちにあふれていたと思います。

(3) 成果

- ① 日本語を交えながらの実施になったので、抵抗感が少なく活動に取り組み、英語に親しむことができた。
- ② 学校行事で発表した英語での自己紹介や、学校で習った英語表現を活動に組み入れることで英語に対する苦手意識を緩和することができた。
- ③ 外国人講師から海外の文化や現地のアクティビティを楽しく紹介してもらったことで、外国文化に親しむことができた。
- ④ 開催日程を延期して宿泊事業を行ったことで、児童たちにとって今年度初めての宿泊学習になり満足度が上がった。

(4) 今後の課題

- ① 余裕を持ったスケジュールを作成し、部屋での休憩時間を多く取り入れたが、アクティブな児童たちが多かったので、もう少し活動時間を増やしてもよかったかもしれない。活動と休憩時間のバランスについて、児童たちの様子をよく知る担任の先生に事前に相談する必要がある。
- ② 今回は日本語を交えつつ実施したが、対象学年によっては学校よりオールイングリッシュで実施してほしいと要望があることが想定される。担当の職員がオールイングリッシュでも対応できるように、英語研修などを積極的に受けておく必要がある。

担当：企画指導専門職付係員 小城 洋介